

平成30年度使用小学校教科用図書
「特別の教科 道徳」の選定に係る答申

秋田市小・中学校教科用図書選定委員会

種目	道徳科
----	-----

1 推薦する発行者

調査員の報告をもとに、8社の教科書について審議した結果、次の発行者を推薦する。

学研出版 東京書籍 光村図書

2 審議の概要

(1) 調査研究資料

- ・調査研究報告書（秋田市小・中学校教科用図書採択委員会調査員）
- ・教科用図書調査研究報告書（県教育委員会）
- ・各教科書会社の教科書見本本および編集趣意書

(2) 協議の概要

委員 各社とも、道徳的価値について考えることができるよう、学習の手引きやコラム、家庭との連携など、様々な工夫が見られる。中でも、教育出版は、教科書の巻末の振り返りにおいて、「家の人から一言」という欄がある。家庭との連携を図ることができるような工夫である。

委員 別冊ノートには、子どもの変容や成長を見取り、評価に役立てることができるような工夫がなされていると思うがどうか。

委員 別冊ノートは、道徳の指導経験の少ない若い教員には有効であろう。しかし、自ら創意工夫を凝らして指導することができる経験豊富な教員にとっては不向きではないか。

委員 本市では、子どもの実態を踏まえ、授業展開や子どもの考えの見取りなどに工夫を凝らす教員が多いことから、別冊ノートに頼ることなく、創意工夫した授業づくりができると考える。

委員 授業づくりという観点で協議を重ねたい。考え、議論する授業づくりには、発問の内容やその発問を子どもたちに示すタイミングが重要である。学研出版や廣済堂あかつき、東京書籍は、教材の冒頭部分に教材名や視点等の情報は示しているものの、発問は掲載していない。中でも、一番シンプルなのが学研出版である。独自の授業展開を考える教員が多い本市の現状を踏まえると、教材の冒頭には、発問などが示されていない、シンプルなつくりの方がよいのではないかと思う。

委員 教材末の「学習の手引き」においても、発問数などで各社違いが見られる。例えば、ある学年での同一教材の発問数を比較すると、教育出版、廣済堂あかつき、光村図書はいずれも4問で、日本文教出版は3問、東京書籍は2問となっている。細かな発問を重ねるよりも、中心的な発問を示す方が、本市の現状に合っていると考える。

委員 発問の数だけではなく、発問の仕方等についても各社で違いがある。自己を見つめ、人としての生き方やあり方について深く考え、語り合うことができる道徳科の授業づくりという観点から考えた場合、東京書籍や日本文教出版は、内容項目の言葉を用いず、考えを引き出すような発問となっており、子どもたちが多様な視点で考えることができるよう配慮している。

委員 教材の内容についても協議したい。各社とも、偉人やスポーツ選手などの生き方に関する教材を取り入れており、興味深い。ただし、登場人物の葛藤場面の学習をとおして道徳的価値の自覚を深めようとする場合、発達の段階にそぐわないものがあるように感じる。

委員 同感である。その他にも、生命の尊さを扱った教材において、子どもたちと同年代、または中学生が亡くなってしまうようなものには疑問を感じる。実際に、その病気を患っている子どもがいる場合など、配慮が必要であると考えます。

委員 同感である。親の立場から見ても、子どもが同様の病気であれば、そのような教材にはふれさせたくない。学校図書や廣済堂あかつきの幾つかの教材のように、病名を出さないよう配慮しているものもある。

委員 いじめに関する教材についても協議したい。いじめに関して、複数の教材を組み合わせることで多面的・多角的に考えることができるよう教材を配置しているのが、東京書籍、日本文教出版、光村図書である。中でも、東京書籍は、扉ページを設けるとともに、いじめそのものを扱った教材と間接的にいじめについて考えさせる教材を組み合わせているのがよい。

命や生命尊重などについて、複数の教材を組み合わせることで取り上げているのが学研出版、光文書院、光村図書である。中でも、学研出版は、全学年において、命、生き方に関する複数教材を配置している。光村図書は、いじめ問題、生命の尊さに関する教材のほか、「世界人権宣言から学ぼう」や「六年生の責任って」など、心に残る、魅力的な教材が多かった。

委員 光村図書のいじめに関する教材で、「逃げる勇気」を扱っているのもよい。逃げてよいのだというメッセージは、他社にないものである。

委員 学研出版が掲載している子どもの権利条約の4つの柱も他社にはないものである。また、日本人が世界に貢献している話、宮本亜門氏や増田明美氏のメッセージなど、バラエティに富んだ内容となっている。

委員 これまでの意見を総合的に判断して、学研出版、東京書籍、光村図書を推薦したいと考えるがどうか。

委員 同感である。

会長 それでは、選定委員会として、学研出版、東京書籍、光村図書を推薦としてよろしいですね。

(3) 推薦の主な理由

<学研出版>

- ・子どもの気付きや考えを引き出し、語り合う授業づくりをする上で重要となる発問に関する取扱いが簡潔であるとともに工夫されており、子どもの実態に応じて、教員が授業展開を自由に考案することができる。
- ・命や生き方に関する複数の教材を組み合わせることで配置することにより、多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。
- ・5年「いじめをなくすために」での宮本亜門氏や増田明美氏のメッセージ、6年「光をともした『魔法の薬』」、子どもの権利条約など、魅力的な教材が掲載されている。

<東京書籍>

- ・子どもの気付きや考えを引き出し、語り合う授業づくりをする上で重要となる発問に関する取扱いが簡潔であるため、子どもの実態に応じて、教員の創意工夫した授業展開が可能となる。
- ・内容項目の言葉を用いず、考えを引き出すような発問を設定するなど、子どもたちが多様な視点で考えることができるよう配慮がなされている。
- ・扉ページに加え、いじめそのものを扱った教材と間接的にいじめについて考えさせる教材を組み合わせることで配置するなど、いじめ防止に向け、子どもたちの意識を高めることができるよう工夫されている。

<光村図書>

- ・生命尊重などに関する複数の教材を組み合わせることで配置し、命についての学びが深められるよう工夫されている。
- ・いじめに関する教材において、他にはない視点で考えることができる教材を取り上げるなど、幅広い視点から学習できるよう工夫されている。
- ・6年「世界人権宣言から学ぼう」や「六年生の責任って」など、魅力的な教材が掲載されている。